祝 昆布♥コンカツ 鰹成就

稚内市と友好都市締結

北海道稚内市との友好都市締結調印式が４月28日、稚内市で行われました。
昨年来、すでに交流が始まっていた両市。今回の締結により、今後さらに交流が加速し、両市発展の起爆剤になることが期待されます。

調印式前日の４月27日、稚内市に到着した神園市長をはじめ７人の訪問団は、稚内市役所を訪問しました。かつおのぼりがたなびく庁舎玄関を入ると、「ようこそ！稚内へ」と書かれた手作りの旗を振るたくさんの職員に迎えられ、早速、熱烈な歓迎を受けました。

両市の末永い関係構築と発展を誓い合う

調印式は28日、グランドオープンする稚内駅前開発ビル「キタカラ」のオープニングイベントとして稚内総合文化センターで行われました。

大勢の関係者が見守る中、両市長が友好都市締結宣言書に署名捺印し、宣言書を掲げると、会場は大きな拍手に包まれました。記念品交換では、神園市長がかつおのぼりを、稚内市の工藤市長が締結記念プレートをそれぞれ贈呈しました。そして、両市発展のため、協力し合うことを誓いました。

調印式後には、記念アトラクションが行われ、稚内南中学校の生徒による大迫力のソーラン節が披露されました。

大盛況だった物産展

翌日の29日には、オープンしたばかりの稚内駅前開発ビル「キタカラ」に枕崎特産品ブースを設置し、特産品の販売や茶節、枕崎茶のふるまいを行いました。特に、枕崎ぶえん鰹は、あっという間に完売する人気ぶりでした。

交流拡大に期待

両市の交流は、最南・北端の始発・終着駅を有するという縁から、神園市長が稚内市を訪問し、友好都市の申し入れを行った昨年１月からすでに始まっています。

お魚センターに設けられた稚内コーナーをはじめ、３月に行われた「まくらざき春の市」では稚内ブースも置かれました。また、稚内市では枕崎写真展が開かれるなど、両市の交流は着実に進んでいます。

今後、さらに官民一体となり知恵を絞り合い交流を続けていくことで、観光や産業などの活性化の起爆剤になるものと考えています。

問合せ　企画調整課企画調整係
℡７２-１１１１（内線２２５）

▲稚内市役所で歓迎を受ける本市からの訪問団

調印式での両市長あいさつ

※一部抜粋

稚内市　工藤 広 市長

昨年７月に稚内市の各界代表の方々と枕崎市を訪れたとき「枕崎市といえばカツオ、そして稚内市といえば利尻昆布が有名です。そういう意味では、ともに和食にとって欠かせない基本であり、２つのまちが力を合わせてだしのきいた味のある交流ができますよね」という話をさせていただきましたし、今後そういう交流を進めていきたいと思っています。「小さく生んで大きく育てよう」という思いで、私たちの時代だけでなくて次の世代、そしてその次の世代までしっかりとこの交流を引き継ぎ、両市の発展につなげていければと思います。

枕崎市　神園 征 市長

昨日、稚内市に着きましたが、訪れるに当たり「遠くにあって近い」という感想を持ちました。本市が友好都市を結ぶのは初めてのことです。枕崎市は稚内市の約10分の１の面積しかありませんが、港町らしい矜持（きょうじ）は持ち続けています。稚内市の恩恵を受けるだけでなく、枕崎市も何かお役に立てればと思っています。両市は昭和24年、同じ年に市になっているようです。お互いが持てる特徴を生かし交流を進めながら、両市にとって利益のある、面白味のある交流を続けたいと思っています。

▲地元中学生による大迫力のソーラン節

▲稚内駅と稚内駅前開発ビル「キタカラ」